

や

やるぞ～

ま

まけないぞ～

が

がんばろうぜ～

た

楽しい学校になるように

<令和4年度終業式 校長講話>

今年度「最終号」そして4月に「再集合」

本日、令和4年度の最終登校日、後期終業日を迎えました。

後期の終了日であり一年間の終了日ですが、「終」と書く終業式あるいは終了式ではなく、正式には、「修」と書く修了式です。つまり、1年の締めくくりの日である今日は、皆さんが、それぞれの学年で学習すべきことをすべて学習し終えて、次の学年に進むことができますよ、という日でもあります。

あらためて、1年間よく頑張りました、そして進級本当におめでとう。

同じように、3月6日の卒業式で、3年生140名もこの学び舎から立派に巣立っていったことは、先日皆さんにも報告しました。そして、卒業式前の2月28日には、3年生は、同窓会入会式という、これまでこの山潟中学校を卒業した8062人の先輩方の仲間入りをする会に臨みました。

皆さんも、1年後、2年後、山潟中学校を卒業して同窓生の一員となるわけですが、自分が知らない人でも年齢が離れていても、自分と同じ学校の出身者にはとても親近感がわきますし、有名人や様々な分野で大活躍をしている人が山潟中学校の卒業生だとわかると、個人的にとっても嬉しく誇らしく感じるものです。

私も個人的に、つい最近とても嬉しいことがありました。今月初めに、JAXA（宇宙航空研究開発機構）が、新しい日本人の宇宙飛行士候補を2名発表しましたが、そのうちの一人である諏訪理（まこと）さんという方が、自分の出身高校の後輩であると、マスコミの報道やSNS等を通じて知りました。

宇宙飛行士の選抜試験は、国内で最も難関だと言われています。今回も 4000 人以上の応募者の中から、とても厳しい 5 段階の選考を経て二人だけが選ばれました。今後、この二人は、日本人で初めて月面に降り立つ可能性がある候補と言われています。

今から 30 年以上も前の 1990 年、日本人で初めて宇宙に行ったのは、TBS の記者だった秋山豊寛さんという方です。私は、この時のテレビ中継を今でも鮮明に覚えています。諏訪さんも、中学生の時に、この時のテレビ中継を観て宇宙飛行士にあこがれたといいます。一度不合格になった宇宙飛行士への夢をずっとあきらめずに再度挑戦し、史上最年長の合格を果たしたのです。私にとっても我がことのように嬉しいニュースでした。

さて、私は、卒業式での 3 年生への贈る言葉の中で、次のような話をしました。

「決して、有名人になることや社会的地位や栄誉や富を手にすることが幸せではありません。誰とも比べることのできない、あなただけの幸せや生きがいをつかんでください。たとえ平凡な生き方と言われようと、家族を愛し、隣人を愛し、地域に貢献し、だれにも迷惑をかけずに、黙々と社会を支えながら生きることこそが素晴らしい生き方だと考えます。周囲から、愛され・励まされ・応援されるような人間をめざしてください。」と。

宇宙飛行士になりたい、サッカー選手になりたい、オリンピックに出場したい、芸能人になりたい、お金持ちになりたい……。とても素晴らしい夢だと思います。そういう夢を本気になって実現しようと頑張る仲間を応援することもまた夢の一つです。そして、私が卒業式で話したような生き方もまた、立派な夢だと思うのです。

「夢」＝「目標」、「夢」＝「幸せ」だと置き換えてみてください。皆さんには、自分なりの「夢」実現に向けた歩みを、来年度もしっかりお願いしたいものと強く願います。

今回が、今年度皆さんにお話しする最後の機会となりました。いわば、校長講話「最終号」です。4 月 7 日、新しい仲間の新入生を迎え、そして 1 年進級した新クラスで「再集合」し、新たな素晴らしいスタートをきれる令和 5 年度を心待ちにしています。